

平成九年度 帯広市

文化賞
文化奨励賞

帯広市教育委員会

帯広市文化賞受賞者紹介



すず き や し ろう
鈴木 八 駿 郎

とみお
(鈴木富夫)

(72歳)

《受賞理由》

氏は、戦後、俳誌『土塊』の主宰、俳誌『とかち』の編集同人として活躍され、昭和31年には同人誌『でるた』を創刊するなど、十勝の俳壇に新風を吹き込まれました。昭和45年には“十勝俳句連盟”の設立・運営に貢献され、一方では初心者の育成にも尽力されなど、今日の十勝における俳句の隆盛の礎を築かれました。

さらに、句集をすでに5冊上梓するとともに、初心者育成のための個人俳誌『童牛舎通信(月刊誌)』は発刊10年になります。常に、風土に根づいた生活感と抒情、その生活実感に即した作品を発表され、北の大地に生き続ける骨太き人間の存在感を印象づけられました。平成7年俳誌『地音』により、洗練された自然と生活に対する抒情と、現代感覚の自由で成熟した詩質が評価されました。

このような氏の長年にわたる活動は、地域文化の向上発展に大きく寄与するものであるため、帯広市文化賞を贈り顕彰するにふさわしいものであります。

《略歴》

- ・大正 14 年 清水町(旧 御影村)に生まれる
- ・昭和 43 年 句集「轆轤」刊行
- ・昭和 47 年 句集「方円」刊行
- ・昭和 48 年 帯広市文化奨励賞 受賞
- ・昭和 50 年 帯広市功労者表彰 受賞
- ・昭和 50 年 北海道社会貢献賞 受賞
- ・昭和 52 年 帯広市民劇場功労賞 受賞
- ・昭和 60 年 帯広市民文芸佳作賞 受賞
- ・昭和 61 年 句集「地景集」刊行
- ・平成 4 年 句集「馬」刊行
- ・平成 5 年 帯広市民文芸賞 受賞
- ・平成 7 年 句集「地音」刊行。海程賞 受賞

※現在 現代俳句協会幹事、北海道現代俳句協会連合会会長、「寒雷」「海程」の各同人

帯広市文化奨励賞受賞者紹介



しゃだんほうじん にほんぼんさいきょうかいおびひろしぶ
社団法人 日本盆栽協会帯広支部
昭和53年7月5日 設立

《受賞理由》

昭和53年、帯広・十勝における日本の伝統文化である盆栽の普及と発展をめざし、全国組織である社団法人日本盆栽協会の道内2番目の支部として発足しました。以降、年1回の盆栽展や盆栽の技術講習会を開催するとともに、道内各地の盆栽同好会との交流を重ねており、いままでに5回支部会員の作品が国風盆栽展に入選しています。

また、帯広市庁舎落成を記念し盆栽を寄附するなど、地域に密着した普及活動につとめています。

このような真摯な活動は、地域文化の向上発展に寄与するとともに、今後の活動も大きく期待できるものであるため、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰するにふさわしいものであります。

《略歴》

- ・昭和53年 社団法人 日本盆栽協会帯広支部の認証を受ける
- ・平成9年 創立20周年記念式典を挙げる

帯広市文化奨励賞受賞者紹介



げき だん 座 劇 団 ほ う き

昭和43年9月 結成

《受賞理由》

昭和43年の結成以来、25回の単独一般公演、15回の学校公演や招待公演を重ね、地域における演劇活動の振興に大きく貢献しています。さらに、演劇活動を通じて青少年の健全育成のための少年院慰問公演や少年たちの劇団の指導などを続けています。

また、昭和47年以降は、地元演劇グループが行なう合同公演には積極的に参加し、創立30周年を記念した公演も企画するなど、現在も地域における演劇活動の中核的存在となっています。

このような真摯な活動は、地域文化の向上発展に寄与するとともに、今後の活動も大きく期待できるものであるため、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰するにふさわしいものであります。

《略 歴》

- ・昭和 43 年 佐藤秀磨ら 8 名が劇団を結成（劇団名は翌年命名）
- ・昭和 44 年 少年院への慰問公演や週 1 回の少年院演劇団の指導を始める
- ・昭和 47 年 帯広市開基90年記念公演“赤い鳥の居る風景”に参加
- ・昭和 49 年 “オホーツクの女”を初の単独公演として実施
- ・昭和 57 年 帯広市開基100年記念公演“十勝野”に参加
- ・昭和 61 年 市民ミュージカル“青い鳥”に参加
- ・平成 9 年 創立30周年記念公演“そして、あなたに逢えた”を公演